

## 『最高の超能力はイマジネーション』 vol.1

私は読書が好きで、自宅や通勤の際に本を読むことが日課になっています。

最近のお気に入り、ひすいこたろうさん、ひたかみひろさんの『ニッポンのココロの教科書』という本です。

この本では日本人が大切に受け継いできた「日本人の知恵」や「もののとらえ方」が、ユーモアのある語り口調で分かりやすく書かれています。

中でも私が特に心に残ったお話を一つご紹介します。



みなさんは日本の伝統芸能である“能”をご覧になったことがありますか？

能舞台には、大道具や背景など余計なものは一つもなく、背景には松が描かれているだけ。

観客は松の絵を見て、さまざまな場面を『想像すること』が求められます。

松しかないのに、桜吹雪。松しかないのに、源平の合戦。松しかないのに、深夜の山の一軒家…。

また、能ではほとんど動かない「構え（静止した状態）」という基本動作が多く用いられます。

この基本動作に型を加えて表現をします。

能の型には、日本文化が培った「佇まいの美しさ」が満ちています。

こうした場面こそ、最も緊張感が生まれます。それは演じている役者だけではなく、観客も含めてその場にいる一人ひとりが醸し出すのです。

劇場全体が糸を張ったような緊張感に包まれる一瞬は、まさに全員が一体となるからこそ生まれる瞬間です。この瞬間は、そこにいるすべての観客が同じ空間にしながら、同じ場面を『想像』し、共有しているからこそ完成されるものです。このことから、日本人は昔から想像力を大切にしてきたことが伺えます。

こうした想像力を活用して大成功しているのが、ソフトバンクの孫正義さん。孫さんが仕事に取り組む前に必ずおこなうこと。それは、成功した自分の姿を想像し「やったー成功した！」と喜ぶことだそうです。

（予祝と呼ばれたりしますよね！）想像をした未来の喜びのためなら、どんな苦労や困難に出会ったとしても我慢出来るのだそうです。

今や世界は『<sup>フューチャ</sup>VUCAの時代』に突入したと言われてしています。

**V**olatility（変動性）、**U**ncertainty（不確実性）、**C**omplexity（複雑性）、**A**mbiguity（曖昧性）の4つの単語の頭文字をとった造語です。

取り巻く社会環境の複雑性が増し、次々と想定外の出来事が起こり、予測困難な状況を意味します。

こうした時代の中では一人ひとりが明確なビジョンを持ち、「どんな世界を作りたいか」を追求することが重要になってきます。これは先の時代を担う子ども達にも言えることではないでしょうか。

私達も日頃の保育の中で、子ども達の**想像力**を育み、活かせる活動を多く取り入れています。

来月のコラムでは、そんな活動を詳しくご紹介させていただきます。

楽しみにしててくださいね♪

参考文献：「ニッポンのココロの教科書」

著者：ひすいこたろう、ひたかみひろ

出版社：大和書房



（赤塚）